審議会等の会議結果報告

1　会議名	津市総合計画審議会第３回会議 活力のあるまちづくり分科会
2　開催日時	平成２４年７月２４日（火） 午後１時５５分から午後３時２５分まで
3　開催場所	津リージョンプラザ２階 第３会議室
4　出席した者の氏名	**（津市総合計画審議会　活力のあるまちづくり分科会委員）** 井上勝司、川見拓也、篠木幸一、濱野章、南野利久、吉岡泰三 （欠席） 浅田剛夫、井坂紀之、西口正國、服部勝 **（事務局）** 政策課調整・政策担当主幹　濱田　耕二 政策課主事　山本　昌孝
5　内容	１　分科会長、副会長の選任について ２　分科会の進め方について ３　論点に関する議論について ４　その他
6　公開又は非公開	公開
7　傍聴者の数	１人
8　担当	政策財務部政策課政策担当 電話番号　０５９－２２９－３１０１ Ｅ-mail　229-3101@city.tsu.lg.jp

・議事の内容　　下記のとおり

事務局（山本）　それでは、すいません。濱田が所要で外していますが、皆さん、お揃いですので始めさせていただいてもよろしいでしょうか。

まだちょっと時間よりは少し早いですけれども、始めさせていただきたいと思います。私、この分科会を担当させていただきます、政策課の山本でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

全体会でご説明させていただいたとおり、本日の第３回と、８月 13 日に予定させいただいております第４回につきましては、分科会に分かれてご議論をお願いするという形になっております。

分科会の開催にあたりましては、事項書１のほうにも書かせていただいておりますとおり、分科会長と副分科会長のほうの御選任をしていただきたいと考えております。

会長につきましては、分科会の進行と審議結果を第５回の審議会のほうで発表させていただく形になっております。発表内容については、今回の審議会の審議内容を事務局でまとめさせていただいて、委員の皆様にご確認いただくというような形で進めさせていただきたいと考えております。

あと副会長につきましては、審議の席における会長補佐や、会長がご欠席なされた場合に進行をお願いすることになります。

会長と副会長の御選出をお願いさせていただきたいと思いますが、いかがさせていただきましょうか。

濱野委員　事務局案として提案はありますか。

事務局（山本）　はい。事務局案としてご理解いただけるようでしたら、篠木委員に分科会長を、吉岡委員様に副委員長をお願いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

（「異議なし」の声あり）

事務局（山本）　どうもありがとうございます。ご異議ないということでございますので、分科会長につきましては篠木委員、分科会副会長につきましては、吉岡委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。では、前のほうへお席のご移動をお願いいたします。

それでは、恐れ入りますが、分科会長と副分科会長から一言ずつ、ご挨拶をいただければと思いますので、会長の篠木委員から、よろしくお願いいたします。

篠木分科会長　それでは、皆さん、失礼します。ただいま濱野委員様から事務局案の提案ということでご発言いただきました。また事務局のほうから、篠木を分科会の会長にご推薦していただき、各委員の皆さんの御承認をいただきました。３つの分科会で一番重要な分科会だと思います。今回と次回、皆さんのいろんなご意見をいただき、それをまとめさせていただきたいと思います。どうか意見は存分に、忌憚のないご意見をいただき、活力のある津市のまちづくりに向けて、皆さんの絶大なるお力を頂戴しまして、甚だ未熟ですけれども、私が進行のほう、仰せつかりましたので、よろしくお願いします。以上です。

事務局（山本）　ありがとうございます。では、副文化会長の吉岡様。

吉岡副分科会長　吉岡でございます。先ほど、委員の皆さんの御承認を得まして、副文化

会長ということで就任をさせていただくことになりました。微力ではございますので、副分科会長をできるかわかりませんけれども、分科会長の補佐をさせていただいて、皆さんの活発な議論のお手伝いができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局（山本）　ありがとうございます。それでは、これからの進行を分科会長にお願いしたいと思います。篠木会長、よろしくお願いいたします。

篠木分科会長　はい。それでは、いよいよ分科会のほう進めたいと思います。その前に分科会の会議録の署名委員を指名させていただきたいと思います。全体の会議録は名簿順にお願いしておりますので、分科会の会議録に関し濱野委員様、南野委員様にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

全体の会議と同様に、会議録作成後に署名をしていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事項２の「分科会の進め方」について、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（山本）　それでは、分科会の進め方についてご説明させていただきたいと思います。座って失礼させていただきます。

今回の分科会ですけれども、事前に委員の皆様に対してお伺いさせていただきました、課題整理シートであるとか、普段の活動の中で感じておられることについて、先回も発表していただいた内容もあるんですけれども、そのへんのあたりを議論すべきとする内容として、事前に伺っておるような形でございます。

それをまとめたものとして、今回、お手元に「委員提案一覧表」を資料としてお配りさせていただいています。活力のあるまちづくりについて、各委員の皆様から課題として挙げていただいた説明や、その理由などにつきまして詳しくお話しいただきまして、そのお話の内容をもとに、各委員さんのご意見を頂くという形で、議論を進めていただきたいと思います。

最終的に、その内容をまとめさせていただいて、活力の分科会の意見として、第５回で会長のほうからご発表いただくような形で進めさせていただきたいと考えております。以上でございます。

篠木分科会長　はい。ありがとうございます。それでは、ただいま事務局のほうでご説明いただきましたけども、何かご意見などはありませんでしょうか。そのような方向でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

篠木分科会長　はい。それでは、事務局の説明どおり分科会を進行させていただきます。

では、活力のあるまちづくりにかかる課題について、委員の皆様に順次、ご説明をいただきたいと思います。皆さんが２０日までにいろいろなご意見をご提案して、事務局へご提出頂いています、この資料が皆さんの中に入っておると思います。私と副分科会長をあとにしまして、どちらから説明してもらったらよろしいでしょうか。

事務局（山本）　そうですね。一応、この一覧の順番に沿って井上委員さんのほうから、ご発表いただくという形でお願いします。あと後日、送っていただいた委員の方もおられますので、そちらにつきましては、こちら事務局のほうから内容のほうをご説明させていただこうかなと思いますので、よろしくお願いします。

篠木分科会長　はい。それでは、井上委員さん、よろしくお願いします。

井上委員　それでは、座って失礼します。私は分科会で活力のあるまちづくりについても、産業の衰退がもっとも著しいと思います。これは全国的な傾向でもあり、津市におきましては、市民のアンケートの内容から見ても、最も重要度が高くて満足度の低いという観点から、「勤労者の福祉と雇用の推進」についてとか、重点的に推進していただきたいなと思いまして。

要するにサイエンスシティと、ニューファクトリーと２つの地盤がもうすでに出来上がっていますので、まずは企業誘致をあらゆる機関、企業、あるいは大学、また人を使って、また時間をかけて、果敢に取り組んでいただきたい。そして、大学との専門家の方々からも、いろいろ意見を聞きまして、既存産業の空洞化とか新規産業の育成にも、併せて進めていただきたい。

それから、２つ目として、いわゆる雇用の創出ということでハローワーク、または企業に協力を求めて雇用の提供を地道に長い時間をかけて依頼していくと。こういうことで勤労者の福祉、雇用を推進していくということです。

それから、２つ目が観光の振興についてです。一番観光振興に大きなものは、本丸は藤堂高虎が大河ドラマの実現をなんとかさせて、それから津城を再興して路面電車を運行する。それがために、国・県に働きかけ、オール市民・企業に協力を求めて、また近鉄や三重交通さんにも協力を求めつつ、これらはいかに大きすぎますけど。これを実現したならば、おそらく観光客の集客力のアップにつながるのではないかと考えていますが。

それ以前に、津の観光協会と観光振興ビジョンとの関連がどのようになっているのかと。そして、観光協会の機能はどのようなことまで想定されているのか、機能されているのかということ。

そして２つ目として、まずは津の観光ルートの設定をして、それぞれの

地に道の駅とか物販のレストランを創設して、それにはしっかり取り組むことです。そして、そのような状況をＮＨＫや、三重テレビなどに観光地の取材をしてもらったり、それを放映して情報の発信を積極的に依頼をしていただきたい。そのようなことで、勤労者の福祉と観光振興について、意見を述べさせていただきました。

篠木分科会長　ありがとうございます。それでは、事務局、今の井上さんの委員のご提案は十分聞いていただいて、また２回目で検討していただくということでよろしいですか。

事務局（濱田）　はい、それをまとめさせていただくという形になります。

篠木分科会長　それでよろしいですね。ありがとうございます。それでは、川見委員さんのほう、よろしくお願いします。

川見委員　よろしくお願いします。私は「観光資源の世代分類による地域活性化」ということを書かせていただきました。簡単に言うと、若い人向けの観光を誘致したいのか、それとも、どの世代に向けて観光を誘致しているのかというのが、いまいちはっきりと見えてこないなというところが、今の現状で感じられたので、そこをピックアップして書かせていただきました。

身の回りの若い世代のこととしてで、話させていただきます。私の周りの実感としましては、この津には何もないということが、よく言われていることです。でも、何もないことは決してないと思うんです。私は「津市４大学まちおこし隊」ということで、津市の良いところを見つけて中心市街地を活性化するということをやっていますが、やはり探せば探すほど、掘れば掘るほど、いっぱい宝物が出てくるのが津のまちだと思っていまして。でも、それがしっかりと発信しきれていないと思います。

観光協会のホームページを見させていただいても、たくさんの魅力がラインナップでずらっと並べられていますが、果たして、これは誰に向けて発信しているのか、どの世代に向けて、誰に来てほしくて発信しているのかが、いまいちはっきりとわからないなと思いました。その点を意見として挙げさせていただきます。

たとえば、滋賀県のホームページとか見ておりましたら、たとえばあそこにもお城がありますけれども、若者向けに忍者体験のＰＲをやってみたりとか、そのお城で忍者体験をさせてもらって、若い世代に来てもらったりしています。もっと歴史の散策ということで、高齢者向けのＰＲを組んだりとか、いろいろなやり方があると思います。若い世代なら若い世代に向けて来てもらえるような観光ＰＲを、高齢者に来てもらいたいなら、もっとそういうようなＰＲに、しっかりと狙いを絞ることで、もっと効果的な集客ができるのではないかと思いましたので、提案させていただきます。

以上です。

篠木分科会長　はい、ありがとうございます。それでは、濱野委員さん。

濱野委員　今回と次回である程度の結論を出さなければいけないのでしょうか。まずは、前期が終わったところで、その見直しも含めて、後期への意見をまとめることが大事だと思います。何もまとめずに、言いっ放しでそれを持っていくわけにはいきませんよね。

事務局（濱田）　はい、そうですね。

濱野委員　それともう一つ。さきほど、副市長がおっしゃったように、それも含めた答申の目標を決めるのはよろしいですけれども、一応、審議会として２回でまとめるという形をとる必要があるということでしょうか。

事務局（濱田）　はい。

濱野委員　だったら、今回いただきましたこの整理課題シートについて、産業拠点の形成などから、もう一度、皆さんからいろんな意見をしていただく必要があると思います。そして、２番目として農業・林業・水産業、工業・商業の振興について、ここにもありますけど、課題が何か出していただく。

それから、先ほども言われたように、雇用の推進を出していただく。そんな形で少しまとめていかないと、私は２回集まっても何も結論が出ないのではないかなと思います。言いっ放しで終わってしまうと、今後まとめられないでしょう。

篠木分科会長　ほかの分科会の分野と交わるいろいろ提案事項も含まれておると思いますので、ほかの委員さんと、この分科会の委員さんのほうの意見で、たぶん重なる内容が出てくると思うんです。

濱野委員　活力あるまちづくりシートをまとめてもらっていますね。

篠木分科会長　それを今回と次回に、事務局でまとめていただくというふうになっています。

濱野委員　その２回でしたら何でも言えますけど、２回終わっても、何も結論出なくても構いませんか。

事務局（濱田）　今回、この分科会でいただいた皆さんからのご意見を、まとめの段階では、ある程度カテゴリー別に分けて策定をいたします。総合計画の試案と、そちらの大きな体系の中に、盛り込んでいけるものは盛り込んでいって整理するということです。何もこの分科会の中で一つの項目について、集中

してまとめをいただかなくても、最終的には試案のほうに項目なり、記述が入っていくと思います。そういうまとめをした中で、全体の案としてまとめたものを、再度、皆さんでご議論いただくという形になります。あまりこの分科会の中では、方向を狭くせずにご議論頂ければ幸いです。

濱野委員　方向を広くしないといけないのではないか。いろいろな意見について、せっかくいろんな方がおみえになるので、議論を進めていただくほうがいいのではないか。

事務局（濱田）　そうですね。今日いただいた意見に対して、ほかの委員さんからも、いろんなご意見が挙がってきます。うちの分科会のまとめ及び全体のまとめとして、最終的に総合計画の案にどう取り込んでいくかという作業を、今後していくことになります。

逆に、この分科会ではいろんな意見をたくさんいただきたいなと思っております。

濱野委員　せっかく委員になったわけですので、一つずつご意見をいただいていって、私たちが感じているのとは違うものが出てくると思いますので、何かそれに参考になればと思っています。

篠木分科会長　一応、委員の皆さんから提案の内容を発表していただき、そのあとで、またいろいろ濱野さんのご意見もお伺いしたいと思います。よろしいですね。それでは、南野委員さんお願いします。

南野委員　もう一度、ちょっと整理させていただきたいのですけど、意見を述べさせていただいたものを、会長と事務局がまとめていただけるということでよろしいでしょうか。

事務局（濱田）　はい。きょう全体の会議の中で頂いたご意見を整理致します。

南野委員　活力あるまちづくりに対して何か提案となると、結構漠然としていて、範囲が広くなっています。私はどういうふうなことを書いたらいいのかと実は迷いました。提案するにしても、まず財政のことも関係するので、お金のかからない提案ということで、私は「起業家を応援するための土壌づくり」を提案させていただきました。

たとえば、この市内を見ましても、大門や新町通りなど、私たちが子どものころに栄えた商店街が地盤沈下をしてゴーストタウン化をしている。

私は昭和 55 年に起業しました。当時、同じような若い世代の者が飲食店をやったり、ブティックをやったり、いろいろな人が企業を立ち上げて、それなりに成果を出した人もいます。最近、若い人とあまり交流がないからかもしれませんけれども、そのような成功事例というのをあまり聞かな

くなったんですね。

では、ほかのところへ行けば、全くないのかと言いましたら、そうではなく、地方でも会社を立ち上げて成功している人がいる。そういった、何か起業家を育成していこうという土壌がこのまちにはない。企業を起こすような「やってみよう」というチャレンジ精神を育てて、その中の一つの企業でも大きく育ったら、これは雇用創出にもつながって、またその会社が収益をあげれば税金収入も増えるだろうし、そして、人も増えていく。

こういうようなことを、資金面でバックアップするという意味ではなくて、自治体がお金をかけずに、いろいろな実務的な学習や、精神論や心の持ち方など、経営者、起業家を応援するような、そんな仕組みづくりができないのかなあということを、提案させていただきたい。

篠木分科会長　ありがとうございます。それでは、吉岡さんにお願いしたいと思います。

吉岡副分科会長　委員提案の 13 ページに書いてございますので、また詳細を見ていただければと思います。私は、中勢森林組合の役員という立場でもありますので、この審議会の委員としてあまり自分の立場にこだわるというのは好ましくないかもしれません。ただ、そういうことを離れても、現在の森林の状況をみても、ある意味で、今南野委員が言われたように、そこはゴーストタウンであると言えます。

濱野委員が言われたように、いくつかの産業項目の中で、森林ということについてだけ見ると、現在の政策テーマの中でも市民の資源として、市の報告書にも位置づけられております。面積的には 60%が森林であるということから、生産額としては、２次・３次に比べれば非常に少ないかもわかりませんが。津の総合計画の土台にもなろうかと思います。これからの世代に引き継ぐ津市という観点から見ても、濱野委員と一緒の立場だと思いますけれども、もう一度、皆さんで全体のご意見を議論いただければというふうに、提案させていただきたい。

具体的に言いますと、すでに三重県ではそういう問題意識をお持ちで、税金をいただこうというように進めております。すでにパブリックコメントも終わりまして、基本的な議論もされておりまして、一番早ければ平成 25 年度から、県民税、１人当たり年間 1,000 円の税金をとって、それを環境なり、森づくりにあてていこうというように、具体的に進んでいるわけでございますので。

津市としても、そういう財源を含めて、どういうふうに津市の基盤として、活力基盤としての森林を保全・活用していくのかについて、議論のテーブルがあればいいということでございます。

それから、２点目でございますけれども、これは先ほど濱野さんがいわ

れたように、当然、総合計画は一番元になります基本構想と、それから前期と後期の２本の基本計画というものの、３本立てで成り立っています。審議委員に任された議論すべきテーマというのは、やはり今の時代をきっちり捉える、あるいは今の市長の考えなり、市民の考えを反映したものにしていく、そういう議論が必要かなというふうに思いますし。

特に今、やはり活力という点については、やはりきめ細かく施策を実施していかないといけません。疲弊したものを取り返すには相当な労力がいるわけですから、やはり適時を得た施策を当然、もっていくことも必要かなと思います。

そういう意味では、ちょっと書きましたけれども、何が重点的に必要なのか。あるいは効果的に何をしていくのか。あるいは失敗してもいいからチャレンジ的にやって公共投資なり、民間投資を引き入れていくのがいいのか。あるいは先行投資的に公共が投資するのは何がいいのか。特に活力という点では、やはりモデルを見せるということも大事なことですので、そういう議論を活力という観点からしていければいいと思います。

議論の仕方として、具体的にはそれぞれの項目で、南野委員が言われたように、一つひとつの項目を追っていく方法もあると思いますし、雑駁に意見を言って事務局でまとめてもらうという方法もあると思います。

大きな観点と、小さな施策の両方をうまく考えていけば、短時間の間に、この分科会でのいい成果が上がるではないかと思います。以上です。

篠木分科会長　ありがとうございます。それでは、私のほうも少し提案させてもらったことを説明させていただきます。

今、道の駅という話も出ましたし、前回からもそういうお話を聞いております。ちょっと今、河芸の国道 306 号と中勢バイパスの交差するところへ、道の駅の整備計画を津市さんのほうで持っていただいておるわけです。これは河芸町が合併する前から津市さんへお願いをしていた懸案事項です。

津市さんのほうで、もう用地を買収していただいております。そして、いよいよその計画を、これから進めていきたいと思います。河芸だけでなく、津市の経済活性化、農林水産のほうの活性化に重要です。そこがいろいろな津市の情報発信、さらにかなり高い広大な土地ですので、緊急災害時の中継地点や避難の場所にもなります。

ただ、道の駅でものを売るだけではなく、皆さんがゆっくりオアシスとしてくつろいでいただけるようなものを作っていきたい。今後とも、市当局や委員の皆さん、津市の３つの経済団体さんともいろいろご議論いただき、話を進めたいと思います。まず、道の駅の件が１点です。

それから、土地利用について。かなりまだ網掛けというか、23 号線沿いに、どうにも手がつけられない土地があるわけです。大規模集合開発行為

とか、医療とかロードサービスはできますが、調整区域では一般の商業施設は難しい。それが私ども河芸ではなしに津市全体でまだかなり残っております。その土地が、耕作放棄地になりまして、何もつくらないんです。それを有効利用して宅地なり商業施設にしますと、すごく評価が上がりまして、津市の税収にもなります。特に都市計画税の対象範囲内ですので、宅地は固定資産税とか都計税がかかればかなりの収益にもなりますし、それが地域に活力を生む。地域が活力を生めるような方向で土地も利用していただきたいと思っております。

そのへん非常に市当局のほうも難しいと思いますが、決して河芸だけではなく津全体の網掛けを再検討していただきたい。それが津市の活力あるまちづくりの第一であると私は思います。そのへんも、次回にもまたいろいろ皆さんにもご相談していただきたいと思います。

私の主な提案は、今のところ、２つに分けさせていただいております。以上です。

各委員から、ご提案頂いた内容を発表していただきました。だいたい３時半ごろには終了したい予定ですので、今から、ほかの何かお気づきの点なり、異論がありましたら、ご発言頂きたいと思います。

それと、事務局のほうからご提案事項がありましたら、ご意見もいただきたいと思います。そういうふうに順次進行したいと思います。よろしくお願いします。

お時間まだ十分ありますので、各委員さんから提案への補足などありましたら、第２回目の分科会にもつながってこようと思いますので、いろいろなご意見をお願いしたいと思います。そういうものをいただいて、濱野委員さんからもいろいろお話がありましたけど、やはりまとめないけないので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

事務局（濱田）　きょう、ご欠席の方のご提案をご説明致します。

篠木分科会長　欠席の委員さんの提案を、事務局で発表してください。

事務局（濱田）　失礼いたします。きょうはご欠席をされておりますが、西口委員様と服部委員様のご提案ということで説明させていただきます。

まず、西口委員の獣害の関係でございます。

「昨今の獣害に悩まされている山間の農家は大変困ってみえると思います。美杉など山間地に行きますと、農家の奥さんが自分の畑を天井を含めて五面の金網で囲った中で、野菜や果物を栽培してみえるのですが、その様子は、まるで逆の動物園を見ているようで、とても気の毒な光景です。

猟友会に頼るだけでは、効果は限られるので、もう一つの方法として、罠の免許を取得して、「災害」を逆に、ジビエ料理の肉の収穫という「幸せ」

変えられないかと思います。

そこで問題になるのが、高額な罠免許取得費用とその更新費用、それに鹿や猪の精肉処理です。引退された精肉職人さんや一般の市民を会員にして、会費で費用をまかなって、配当はジビエ料理の材料で、そして、小さい精肉処理場でいいので、市に貸していただく。といった、何とか具体的に早期に実現できそうないい案を皆さんに御議論いただけたら、と思います。よろしくお願いします。」

服部委員さん。２点いただいております。

まず「過疎化、高齢化が進むなかで地域の活力が低下していることから、地域の活性化のため、交流人口を増加させる施策等の検討について」とのことです。もう一点も、同じく獣害の関係でございます。「農作物が獣害を被ることにより、生産意欲の低下、後継者不足の問題につながっていることから、獣害対策の振興について」ということでございます。

以上でございます。

篠木分科会長　以上ですね、はい。それでは、いろいろまた、何かお気づきのご意見がありましたらご発言をお願いしたいと思います。

濱野委員　皆さんからのいろんな意見をどうまとめていくのか。たとえば、雇用でもそうですが、私の店ででは、シルバーを使っているけど、本当にシルバー人材なんていう使い方をじっくり考えていったら、いい方法があるような気がするんです。

それから、先ほどの観光でもそうやけど、観光って、私たちが身近に見ているのであまり思わないところがあるけど、県外から津に来て何を見たいというと、やっぱり大阪の人から見たら、昔懐かしい海が見たいと言います。勘違いしているのは、やはり高虎とお江のほうばっかりの観光やと思うけど、悪いけど、高虎はほかの人はそうは見たくない。大阪の人から見ると海が見たいという。

いっぱい観光でも良いところがあると思う。その中で生かして、たとえば高虎とお江やったら、せっかく２つもあるのだったら、津にも提案したけど、津にひっかけてツーデーウォークにして、一日はお江コースで、もう一日は高虎コースで歩いてもらったら、観光にも効果あります。それから、道の駅なんかでも、道の駅で、小さい道の駅で成功しているのは和歌山が成功している。和歌山は三重県と同じような状態。海があるし、農作物はあるし、和歌山街道がいっぱいあるもので、６店舗ぐらいでやっています。今の生活難民、買い物難民なんかも助けるように、そんな状態なんです。私もＮＨＫがテレビに取り上げたので、ちょっと見に行きましたけど、大府の道の駅、見たことあります？

篠木分科会長　いや、まだ。

濱野委員　すごい規模です。そのぐらいになってきたら、道の駅で産業をつくることもできる。ここは、農園もやって、三河湾の魚もあり、パンがあったり、レストランがあったりする。売り上げは日本でトップクラスの 30 億円ほどで、駐車場は 1,000 台ぐらいある。道の駅はそんな時代なんです。

先ほど言われた都市計画なんかも、津市は見直すというが、見直しはいつになりますか。もうしませんのか。津市の都市計画では、旧津市もあるし、久居もあったし、芸濃のほうでは、亀山の都市計画もあって、見直すということでした。見直すなら、全体的に見直さなければいけないが、津市はもうあれは諦めたのか。

いろんな課題があって、せっかくいろんな委員がみえるで、一つずつ、つぶしていったらどうかと思います。バラバラになると、まとめなければなりませんから。バラバラにやっていてはまとまらないので、私はそう思ったりしますが。どういうふうにしていくかなと思ったりしますけどね。そうじゃないと、大変だと思います。聞くだけでまとめられない。

事務局（山本）　テーマが活力ということで、もちろん商業・工業・農業などの基幹産業、観光、道路整備などのいわゆる社会資本整備の部分、かなり広範囲にわたっていることになりますので、なかなか２回でまとめていくのは、時間の関係で難しい部分があろうかと思います。

一つの方法としましては、今、おっしゃっていただいているとおり、ある程度、テーマを絞るのも方法ですし、それぞれ広範囲のものを全体的にまとめていくというのも、方法の一つかなと思っています。

濱野委員　これは何か参考にと私たちにくれたんですか。

事務局（濱田）　はい、そうです。それは、津市のほうで作成した、これまでの５年間の計画の結果です。いろんな団体の声などを聞いたまとめですね。そういうご意見もある中で、参考にしていただきたいということでございます。

篠木分科会長　まずは、今回と次回の分科会の意見を、いろいろまとめていただいて、そしてから、１０月、１１月に、全体の地域審議会でお話をしていただき、まとめたものを、来年２月に市長に答申するという方針でよかったですか。

濱野委員　９月か何かにまとめるのではないですか。

事務局（濱田）　答申は１月、まとめは９月ですね。おっしゃったように、テーマを絞ってというのも一つの方向ですし、そのような形で、たくさんのご意見をいただいたものを、また全体の案というのができていませんので、その中にいかに溶けこませていくかだと思っています。

最終的には、それぞれの分科会なりでいただいた意見を、一つの案として審議会の全員の皆さんに見ていただきながら、さらに議論を深めていくということになります。ここの分科会の中で、ある程度、テーマを絞るのか、そうではなくて、逆にたくさんの意見を分科会として挙げていってもらうのか、方法としては２つあるのかなと。

篠木分科会長　本来、１つずつ、一応聞いていくという形でしょうか。

濱野委員　いろんな立場の方がおみえなので、いろんな意見があるでしょうから、一つずつ議論していったほうがまとまりやすいのではないか。２回しかないのに、事務局がまとめる作業が大変だろうと思う。

もっと知りたい意見があるので、皆さんの意見はそれで、お話聞かせてもらいたいというのもあります。次回、１つずつ、ご提案いただいたらどうですかなと思うな。

事務局（濱田）　逆に、皆さんのご提案に対して、いろいろ違う角度からのご意見をいただきたいなと思います。

篠木分科会長　結論的に答え出すというのは、財政も絡んでもきますし、非常に難しい面も出てこようとおもいます。やはり分科会で、そういう計画性を持ったご提案は限界もあるのではないか。

事務局（濱田）　いったん分科会として、いろんないただいた意見を、これから策定していく総合計画の中にどういうふうにまとめていくかということですので。活力というのは、先ほど申し上げましたように、かなり幅広うございますので、逆にこの審議会の中では、お時間も限られる中ですが、たくさんのご意見をいただければなと思っています。そのなかで、方法を議論していただければなと思います。

篠木分科会長　はい。吉岡委員さん。

吉岡副分科会長　はい。議論の進め方の議論かなと思うので、提案させていただきます。今、濱野委員が言われたように、個別のことをずっと順番にという方法と、川見さんが言われたみたいに、「ええとこないやんな」という議論があるの。活力という点からいうたら、ええとこが元気やったら、まあ活力というふうに言えるのでは。あまり強引にしてしまうのもあれですけれども。

それぞれの立場で、観点は少々ずれていてもいいので、こういういいとこがあるよと。観光だけでなく農業も、私がかかわる林業もあるかもしれませんし、河芸地域、美杉地域、津地区という場所としてのいいところがあったり、業態としてのいいところがあったりというのがあるかもしれません。

たとえば、いいところを１回みんなで出し合うという、ランダムな議論で、それをどうするかという議論まで発言してもらってもいいかなと思います。まあ両方の議論のやり方があるので、どちらかでもいいと思います。

皆さんとして、観光という切り口だけではなくて、津のいいところ、津の活力として期待するところは、今、それぞれが言われた部分であろうかと思いますが、そういうのをランダムに出し合っていって、活力あるまちとしての意見とする方法もあります。まとめはしにくいかもしれませんが。

それから、濱野委員のメモに書いてありますが、産業拠点の形成ということでやってみる。さらに、農林水産、工業・商業の振興ということでやってみるとか、そういうやり方もある。

まあ、初顔合わせなので、あまりどっちの議論の進め方がいいと、まとめる必要はないかもわかりません。ラフな提案で申し訳ないですけれども、また皆さんのご意見があればどうですか。

ランダムに、それぞれ立場から、今、言われたことを復習的に出してもらうという議論の進め方もありますので、２順目でやるというやり方もあります。よろしかったでしょうか。きょうは、まだ１順しか皆さん発言していただいていませんので、２順目の議論としてはどうでしょうか。

篠木分科会長　はい。

吉岡副分科会長　濱野案をそのままやるのも方法の一つですし、川見案みたいに、いいとこをみんなで出し合うというやり方もありますので、どっちというふうに、両方の提案だけさせていただきます。

篠木分科会長　事務局、どうですか。何か提案あれば、事務局の案もここでいただいて、それをもとに、また各委員さんからもご意見をいただきたいと思います。事務局の「分科会の方針」というのは、今のこのような方針でよろしいんですか。今、こういう議論しておる方針で。それが一番大事やと思います。

事務局（濱田）　はい。あえて言えば、３つの分科会に分けたというのは、全体の中では、なかなか発言が難しく、まとまらないということで、あえて３つの分科会に分けました。若干、範囲は広いですが、先ほどおっしゃっていただいたように議論の方法やまとめ方はいくつかあると思います。ランダムにおっしゃっていただくやり方と、ある程度、幾つかの項目を決めた中で、それぞれについて、考え方をまとめていくというやり方もございます。事務局のほうで、どちらかに決めようとは思っておりません。

篠木分科会長　はい。それでは、もうひと回り、各委員さんから不足の付け加えや、今の各委員さんからの提案についてお気づきのことがありましたら、順次、またお願いしたいと思います。

今度は、逆に川見委員さんのほうからお願いしたいと思います。

川見委員　メリットというか、いいと思うところを挙げていくという形でよろしいでしょうか。

濱野委員　ねえ、それしかないと思います。

吉岡副分科会長　その中で、また一つの工業の問題や、開発の問題で、大変な問題が出てきて、そういうふうでいいと思いますね。事務局がまとめるのは大変ですけど。

事務局（濱田）　いろんなご意見をいただくんですけれども、最終的にはいくつか、先ほど申し上げました大きなカテゴリーに分類できるのではないかなと思います。

篠木分科会長　それでは、川見さんどうぞ。

川見委員　身近なところのことしか言えないので、申し訳ないんですけれども。やはり思うのは、中心市街地と言われてびっくりしたんですよね、誰もが。ここは本当に中心市街地だろうかと思ってしまったんです。でも、年配の方から、昔はすごかったという話を聞きます。どんなに大門に行くのが楽しみだったのか、というのをすごい笑顔で聞いていると、何か少し寂しい気持ちにもなったりします。

でも、やはり衰退するにはいろいろな理由があるということを、さまざまな方からお伺いして、たとえば後継者の話でしたり、今、実際にお店をやられている方のモチベーションの問題でしたり。いろいろな話は伺って、なかなか一筋縄にはいかない部分だなと思います。

私は、この中心市街地の活性化という切り口から、いろいろなことにかかわらせてもらったのですが、そこからいろいろ見えてきたのが、若い人がなかなか入り込めていないなということです。いろんな活動をさせていただいても、若い人は若い人で、年配の方々は年配の方々で集まって何かをしていて、なかなか交わる機会が少ないなと感じるところがあります。お話をさせていただきたくても、聞かせていただきたくても、そのタイミングがつくれないというか。どこにタイミングがあるのかわからないといったようなことも結構ありました。

若い人達も、ここにはこうしたほうがいいと思っていることがいっぱいあります。そんなに知識も少ないので、個別になるかもしれないんですけれども、そういった、一つひとつの意見というのを聞いていただけるような機会というのを、増やしていただけたらと思っています。そういったところから始まるのではないでしょうか。

観光というところにいくと、昔から住んでいる人は結構、ずっとここに住みたいというんですけれども、周りの若い世代は、なかなかここにいたくないなという人もいます。では、なんでそこにあまり住みたくないのかなというと、「何もない」というのが、大半の返事になっています。でも、「こんなところもあって、こんなところもあって、こんなところもあるんだよ」とちょっと言ってみると、「え？そうなの？」「今度、連れていってよ」と言われるようなことも結構あります。

今、たとえば大学生として、一時期だけかもしれないですけれども津にせっかく来ている人に対して、ここの魅力を伝えきれていないという状況ではないでしょうか。観光に来ても、たとえば、津城の城跡だったりしても、知らない人が多いというのは、若い人であれば顕著だと思います。魅力というものをもっといろんな世代に向けたアピールできるようなアイデアが、もっと出ればなあと思います。ざっくばらんで申し訳ありませんが以上です。

篠木分科会長　はい、ありがとうございます。井上委員さん、皆さんのご提案にお気づきの点がありましたら、御発言をお願いします。

井上委員　私の提案した内容以外のことでもいいですか。

篠木分科会長　はい、結構です。

井上委員　たとえば、地域づくりというのか農業になるのか。今の静岡がお茶の名産地で、あれは徳川家康がその土地の発展にむけて指導して、お茶を栽培するようになったわけですね。そのように、この津市なりの農業というんですかね、たとえば、美里へ行けばおいしい蕎麦食べられる、たとえば一志へ行ったら、おいしい豆腐を食べられるということが必要です。昔、嬉野の笹井町長さんが、嬉野では大根と大豆を嬉野の特産にしたいということで進められて、嬉野大根と大豆から来て嬉野の豆腐がおいしいということでＮＨＫでも取り上げていただきました。

行政指導で、たとえば芸濃町は蕎麦、あそこは椎茸、豆腐というような各地域の特産物というのを行政指導でなんとかできないのかなと。なんでもかんでも、みんな同じようなことをどんぐりでやっていても、なかなか魅力あることはできない。「あそこは蕎麦、あそこはいちご」とかいうようにそれぞれの地域において行政指導できないものかと思いましてね。

篠木分科会長　それでは、南野委員さんも、何か御提案のほかにお気づきの点。

南野委員　３人の委員の方にお伺いしてもよろしいですか？

篠木分科会長　はい。

南野委員　井上委員は、何か歴史に造詣が深いというふうに思うんですがいかがでしょうか。

井上委員　いえいえ、それほどではないですね。公民館におりましたので、浅くて広いというか、市民との交流がありましたものでね。

南野委員　司馬遼太郎はどうも、藤堂高虎に対して、あまりいい印象がないように感じられます。高杉晋作の本『世に棲む日日』を読んだら、藤堂藩のことを良く書いていないんですよ。また、鳥羽伏見の戦いにおいても敗走する旧幕府軍を後ろから撃ったというような、そういう話もある。人気の高いところと、非常に人気の低い藤堂藩というものが描かれているんですけれども、ＮＨＫの大河ドラマになるんでしょうか。

井上委員　まあ、私の連れ合いの聞いた話ですけれど、２つあって。いわゆる藤堂高虎は要領よすぎるというのか、そういうような性格もあったとか聞く。また、大きな大河ドラマには必ずヒロインがつきものだが、藤堂高虎にはヒロインがないそうだ。そういうようなこともあり、ＮＨＫでも苦慮しているという話は聞きましたけどね。

南野委員　一生懸命、商工会議所とかがやっておることが実るのかなあというふうに見ています。川見委員、よろしいですか。出身は川見委員。

川見委員　兵庫県です。

南野委員　兵庫県で、今、２年ということで、川見委員は大学を卒業したら兵庫県へ戻るのですか。

川見委員　こちらでできれば働きたいなと思っています。たぶん働く場所としては名古屋のほうになるかもしれませんが。

南野委員　それだけ三重県のことを思っているんですね。なかなか兵庫から三重大学に来て三重に残るというのは少ないんじゃないでしょうか。

川見委員　そうかもしれないですね。なかなかいいところに気づききれないままというのも、あろうかなと思います。といっても、大学にせっかく人が来ても、一つ問題があると思っています。大学から、たとえば大門に行こうと思ったら、県外から来ている人というのは交通手段が徒歩か自転車か電車に限られますので、なかなか授業が終わってから津駅まで出向こうとかいうのが難しく、近いようで遠いんですよね。

となると、三重大学の周辺の居酒屋だったりとか、ちょっとした店ですべてがすんでしまって、結局、その中心市街地にある魅力だったり、森のきれいさだったり、そういうものに気づかないまま、何もない場所だった

といって、ほかのところに行ってしまうということになりかねない。

南野委員　バイト先とかはあるのでしょうか。

川見委員　そうですね、バイト先も結構、大学の周辺になっています。駅にはかろうじてあると思うんですけど。

南野委員　みんなが、職種を選ばなかったら、バイト先見つけるにもそんなに苦労するわけではないのですね。

川見委員　職種を選ばなければ結構、ありますね。

南野委員　最近は、バイト先がないもので、キャンパスをもう一度市内に戻してくるというような大学もあるらしいです。

川見委員　そうですね。バイト先に関してはそこまで厳しいということは聞きません。

南野委員　うちは薬剤師を採用しないといけない職種です。薬学部というのが、三重県にはまだ卒業生が出ていません。鈴鹿医療科学大学が薬学部を新設し、第１期生が現在５年生です。薬剤師を大阪や京都で採用して、３年間から５年間の契約で津へ異動させているわけですが、そうすると、結婚して子どもができると、津のまちが住みやすいといって、結構、永住する人も多いんです。だから、決して、津のまちというのは住みにくくない。でも、学生で残ってもいいというのは、それは少数派ではないでしょうか。

川見委員　多くはないかもしれないですね。

南野委員　ぜひぜひ、川見委員さんには残ってもらって、津の大学生にも津のいいところをＰＲしてもらいたい。

川見委員　はい、もうどんどん言っています。

南野委員　濱野委員、どうですか。津の景気といいますか、こういうことで、何か教えていただくことがあったら、ちょっと教えていただけませんか。

濱野委員　大学の話が一つで、隣に滋賀大学があります。滋賀大学の医学部を卒業した子はだいぶ残っています。三重大学は大部分は出ていきますね。

南野委員　滋賀は人口が増えていますね。

濱野委員　大学に残っていますね。そこらの違いがある。

南野委員　医学部については、医局に残る学生が少ないですね。

濱野委員　先ほどからお話があったけど、時々津市がメッセや競艇でイベントされますね。お客さんが集まるイベントをしようと思うと、野菜とか何か生鮮食品がないといけません。

私もこの間、見に行ったところで面白かったなあと思ったのは、これは大門などでやるには協力が必要ですが、お百姓さんが野菜や魚を軽トラックで持ってきとる。軽４で持ってきとるということは、降ろさんでいいし、片付けもそのままいける。人だかりができて、お店ができる。

津の大門の人は、プライドがあるもんで、商店街の真ん中に軽トラックとか嫌がる。

南野委員　やはりきれいでありたい。

濱野委員　そうそう。だけど、その泥臭さがないと、人は集まらないと思います。もっとそういう取組を、年に１・２回のイベントではなしに、毎週そういう形にすることも必要である。せっかくお江があるのであれば、０と５はお江の市にするなど、何かしていかないと、本当の集まりにはならない。

旧津市の周辺には、河芸から、芸濃から、安濃から、美里から、白山、一志、そこらの協力をあおぐ形にせんとあかん。

それと、井上委員はまちにいるのであまり気がつかないかもしれないが、津って食品がいっぱいあります。たとえば、昔はお茶は摘んでも自分達で売らないので、全部、静岡の宇治へ行っていました。それで、宇治茶仕様のようになっていました。でも、今、やっと美杉のお茶で売るようになりましたし、芸濃の楠原のお茶は、海外に津のお茶として売られています。それ以外にも、一志でとれる自然薯なんというのは、三重県ではトップクラスですし、芸濃町のずいきは全部京都の料亭にいっています。そういうＰＲが下手なような気がします。

道の駅でもできたら、道の駅には商品が並べるのはそのシーズンしか並ばないけど、それ以外のときにはせめてパネルぐらい掲示して、「津の名産はこんなのあります」という形で、「これはすごい並びます」と書いてＰＲするぐらい、いっぱい物産もあるし、ＰＲもしていかんといけません。津はＰＲせずに、ほかの新聞社はＰＲするけど、「海やけど、山あっての海や」ということで、本部の方々が芸濃のほうで植樹をしていただきました。私もいっぺん見てきたけど、本当に一生懸命、植樹している。桜ともみじを植えてきましたし。皆さん知らんけど、百五の森なども、せっかくありますので知ってほしい。

南野委員　芸濃にね。

濱野委員　芸濃に。津の出身の百五銀行は頭取以下全部来て、みんなが植樹していった森があります。そんなことを行うと、もっとみんなが関心もってくれます。そんなＰＲも、もっと私はしていくべきだという気がしますけどね。もっと好きになる。

先ほど皆さん言ったように、意外に、大学から高校から、住みだしたらいいところやと思います。あまり住みにくいという人はいないと思います。

そういう、いいとろのＰＲをしていったらいいような気がします。

今、それが足らないの。この間、人口の統計が出てびっくりしましたけど、四日市も鈴鹿も増えているのに、津はこの年でマイナスでした。周りが減るのはしょうがないけど、まちなかが減っとるとは思いませんでした。津市の総合計画では増えとる予定で組んでいますね。それが減っていて、びっくりしました。

そこは、なんでかということを考えると、やっぱりよさのＰＲが足らないような気がしますなあ。

篠木分科会長　吉岡委員さん、何かありますか。

吉岡副分科会長　いやいや、まだ。

南野委員　川見委員。最近、まちコンが流行しているみたいですね。新聞によると、1,000 人も 1,500 人も集まったといいます。最近、白子でもやったらしい。あんなので、大門のまちが賑わったら、お金もかけなくていいと思うが、そんなのはどうでしょうか。

川見委員　そうですか。まちコンって、どういうことをされたんでしょうか。

南野委員　ネットでおおがかりなことを仕掛けて。

川見委員　合コンですね。

濱野委員　駅前でも、やっているのではないか。

濱野委員　ええ。この前、出ていました。

南野委員　そうですか。ここは三重大あるし、看護大もあるし、短大もありますし。

川見委員　それなりに成功はすると思います。大学の中に 6,000 人ぐらいおりますので、その中で一回集まってしようよというのは、この間、ほかの学部から出ました。300～400 人は集まったという話で、ほかの大学も含めてそういうことをすれば、集まることは集まると思いますね。

篠木分科会長　よろしいですね。吉岡さんいかがですか。

吉岡副分科会長

濱野さんの言われたシートの中で、交通ネットワークというのが結構大事です。さっきの道の駅とかを、点ではなしに面としてどういうふうに、広い地域で結ぶか、ネットワークがやっぱりできているかというのが、住みやすさや活力にもかかわるのではないでしょうか。

そのあたりは、先ほど川見さんが言われたように、三重大からまちなかに出てこようと思うと、それも一つのネットワークというか、単体の点と点のつなぎであって、ネットワークの思想みたいなところがあります。

それぞれの立場から見て、やはり大学の活力の点から見れば、市街地とどういう連携するかという施策がいるかというテーマ制みたいな議論もあります。大学１万人合コンをやりたいけれども、それだけのアクセスが悪いとか、会場が大門にしようと思うんだけれども、大門を通行止めにするのは難しいとか。通行止めにするのは、逆づかいという方法であり、エリアとして、ゾーンとして捉えてしまえば、アクセスがあって、その中の内的アクセスがあれば、そんな細かいアクセスはいらないのではないか。そんな、いろんな議論があるだろう。

交通アクセス、交通ネットワークの議論というと「過疎地のバスどうしよう」というだけではなく、やはり全体のネットワークとして、やっぱりどう公共なり、民間なりで効率化してくかというふうに、それぞれの視点が大事です。

特にきょうも書いてありましたけど、路面電車ですか。富山市なんかは、昔の廃線したＪＲの路面電車を使って、市が中心になってやったり、県が中心になってやったりしています。それがいいかどうかは別として、個別の公共交通のネットワーク、過疎地のネットワークを考える必要がある。路面電車をどうしようというのではなしに、津市として産業拠点と何かの拠点をつなぐとか、駅と新町の地域をつなぐために、なんとかしようとか。４大学を生かすために４大学からきっちり大門を経由した交通ネットワークをつくらないとあかんとか。個別の先ほどの話みたいになるけど、議論っておもしろくもないので、モデル的に議論をしたいなと思う。

特に４大学を生かすという意味では、そういう過疎地じゃないですけど、大学から来てもらうバス路線があるとか。たとえば三重大学であれば、新町発、単に三重大学病院行きしかないですよね。そうではなく、三重大学行きとか、三重大学の学生さんがどこに下宿しようが、ちゃんとアクセスできるとか。

たとえば４大学を回るバスのアクセスによって、活力をどういうふうにするかというのは、やっぱり大事かなと思いますね。そのあたりから、ぜひ、大学のほうからも発信はしてほしいと思いますし、逆に商店街からも発信してほしいですね。受け身ではなしに、大学から呼ぶルートが欲しいとか。

昔、いろんな団地がどんどんできていくときに、全然、バス路線が発達してない。最初は靴がドロドロになるぐらいの団地から始まった。私は高校の時は泥道を歩いて親戚の家に行っていました。団地開発から始まって、今はもうバス路線ありますでしょう。あれは、団地の方がどんどん陳情したり、当然収益性もあるから、三重交通がニュータウンへ行く路線をつくっちゃうとか。

逆の立場からいったら、三重大学や４大学側からそういう三重大学発、看護大学経由路線とか、極端ですけれど、そういう議論で、それぞれから提案してもらうと、また新しい展開があるかなと思います。

交通アクセスネットワーク抜きにしては、たぶんこれからのまちづくりはできないでしょう。もし、できたらおもしろいかなあと思います。

それから、先ほど出たゴーストタウンですけれども、観音さんと、今度、中央公民館が移転してできますよね。福祉センターができますよね。中央公民館というと、だいたい社会教育生涯学習施設になっている。ほとんど夜の講座がなくて、お昼しかないですね。たぶん現職とか学生さんが呼ぶしかけというのがないわけです。そのしかけのところに、たとえば若者が行くきっかけというか、魅力というものを、大門側にあるかというところでいえば、難しい。どこかのなんとか地蔵さんじゃないけど、年寄りの銀座ができてもいいんであれば、大門をそういう銀座にして活性化するという。若者がいるからイコール活性化したまちとは言い切れない。やっぱり人口が増えるというか、行き来してもらえるというのであれば、たぶん中央公民館と社会福祉センターが、今度移転するというのはいいとして、そこへ学生が行くしかけがないですよね。

濱野委員　いっそ、大学ぐらい入れてしまえばいい。

吉岡副分科会長　そうそう。そういう議論もあるんです。短大のキャンパスをあそこ置いたらという議論もあるわけです。まあ三重大学の医学部のほうのサテライトとしての案が出ていますけれども。そういう仕掛けがものすごい大掛かりになればいいと思います。

４大学発信基地にはなる、大門とほかに空き店舗利用を兼ねて、活性化も兼ねて、そういう仕組みがつくっちゃって、つくったら終わりではないですけどね。つくるのが、最初の目的だとは思いますけど。少し明るい観点を大門に入れないと。

川見委員　そうですね。大門は学生が住めば、学生割引みたいなのもしていくとか。

吉岡副分科会長　うん、学生は嫌でもみんなその周りで買い物しますね。

篠木分科会長　ありがとうございます。私も今、皆さんの各委員のご発言の中で、ちょ

っと気がついたことは、非常に津市は、津の駅前、商店街、大門、また新町商店街とか、非常に分散していることです。昔は大門もかなり活力のある中心市街地として賑わっていましたが、最近は、川見委員さんもおっしゃったとおり、だんだん大門がさびれていって、見たらびっくりするというご発言もありましたし、活力のあるまちづくりにおいて一番難しいところは、分散していることかと思います。

今後、長いスパンの取組だろうと思いますけれども、津の都市計画のもとでまとまったものにできればいい。そうしないと、こう分散化して分かれとるということは、いつまでたっても活力が出てこないと思います。

やはり活力を生み出そうとすると、何かそういう集中的なことをやり、そこへいろんな方が入ってきてもらうことで、だんだん大きな輪になってこようと思います。今後、どこまでそれがまとまるかわかりませんけれども、活力のあるまちづくりに対しては、そのような話もさせてもらえればと思います。

きょうの課題の一つ、活力あるまちづくりというものは、僕はそういうことやないかなと思いますけれども、各委員さんもそれなりにお気づきの点があろうと思いますけども。

濱野委員　大門というのは本当に難しくなってきましたね。なぜかというと、本当にお年寄りをとりたいなら、私は三重県一の巣鴨になるべきだと思います。観音さんなり城跡を活かして。だけど、商店街の人もその気があるかどうか。この三重県の中でも広いんだけど、三重県の桑名はアピタがあったりして若者のまちですけど。その後ろに仏具通りがあります。その通りには三八市がありますけれども、その三八の時は２万人が集まります。お年寄りが。あの三重県でよう集めておるなあ。中を見たら、本当に昔の売り方で、お惣菜でもお年寄りが買いやすいように、裏向きで１匹で売っています。それと、履物でも、ショールームと違って壁にいっぱいずーっと色んなサイズの履物が置いてある。服も様々なサイズがずらっと並べてあって好きなだけ触れる。最近は、なかなかお年寄りが買うような店がなくなってきているけれども、ここではたくさん買われている。

巣鴨のようになれとは言わないが、私は商店街はもっと勉強すべきだと思います。巣鴨のほうにいっぺんも行ってない。そんなお年寄りを大事にしたいというんだったら、見てこなければいけない。巣鴨に行ったら、お肉屋さんもあるけれど、お肉屋さんでも、そんな失礼な売り方していない。ステーキでも、「このステーキはおはしで切れます」と書いてある。マクドナルドでも、そんなシルバーシートと書いていない。「ゆったりしたお席があります」と書いてある。そういうところを、見てこなければいけないと思う。中をお年寄りが歩かれるのだから、とげ抜き地蔵まで行くから。それから呼ばれるのも、お店の人が年配を呼ぶのも、ちゃんと、なんて呼ぶ

のかというと「お兄さん、お姉さん」という。

南野委員　おじいちゃん、おばあちゃんじゃない。

濱野委員　絶対、そんな失礼な呼び方はしません。やっぱりそういったところを見てこないとだめですね。あまりにも三重県の県庁所在地として恵まれすぎていたので、そこが甘いと思う。

ちょっと違うけど、合併のときに各地域で合併の話で、小布施のセーラさんを白山で呼びました。その時、セーラさんが、「うちは小布施のあの小さいまちで、マラソンというか、歩きながらマラソンやってますで」と言ったもので、私はその年に行ってきた。市の職員に言っても、市の職員のスポーツ課は誰も行かなかった。その年に見に行ってきて、本当に地域でいっぱいもてなしてくれる。お金はかかってへん。演奏も消防団が警備の消防の格好で演奏してくれて、送ってくれるわ。セーラさんは、あんなきれいな格好してへん。台所の格好で、ちゃんと言うのも、「頑張りなさい」違うの。セーラさん、「楽しんでください」「楽しんでください」と送り出してくれる。

途中ではいっぱい、長野なものでりんごジュースや何かいっぱい飲ませてくれるし、終わったら、長野の最後に道の駅のところに出てくる。道の駅のところは、もう嫌なほど物産を置いてある。もう買わんでおれんようになるんですわ。去年の４月、各中学校や小学校やスポーツ少年団にどんどん声かけまくって 2,000 人ぐらい集めたけど、小布施はあの小さいまちで、去年 8,000 人集まったそうだ。

小さいまちでも生き方はあるんだし、そこらは、もう少し三重におって、いいところを見つけないかねいのですけどね。シティマラソンも、新しいスポーツ施設ができたら、少し見直そうという声もあるが。

シティマラソンも、都市間競争になってきたもので、松坂は 4,000 人もスケール、鈴鹿はサーキット走らせて 4,000～5,000 人集める、伊勢は健康マラソンで１万人も集めている。津は何もせんと、2,000 何人では恥ずかしい。せっかくいいとこあるんだからで、観光も含めて、これはもうちょっとＰＲしていかんといけないような気がする。

篠木分科会長　はい、いろいろご意見も伺わせていただきました。事務局、次回のこの分科会について、何かご提案とか、事務局の方針とかありましたら、この場でお聞きしたいと思います。

次回もこういう方向でいいのか。今日の話はまとめてもらいますけども、そのへんはよろしいんですか。ほかの分科会がどういう状況かも、私らはわかりませんで、ほかの分科会の状況もこういう方向なのか、どういうふうなまとめをしておるか。そのへんは僕らも知りたいです。

そのへんも踏まえて、また書面で、次回開催までに各委員さんに内容をお聞かせ願えたら、各委員さんも、次回の分科会に対してのご意見なり、いろいろ考えてもいただけると思います。よろしいですか。

事務局（濱田）　今日、たくさんご意見いただいた分については、どのようにまとめていくか。ある程度の議論は出ておったんだけれども、大きなカテゴリーは分けていけると思います。そのカテゴリの中でどういう方向性になるのか。その中には細かい部分では、こんなふうにしたらとか、こういうふうにしたらというご意見もありましたので、それは一応、整理もさせていただいて、また分科会で御相談をしながら、事前に皆さんに資料を提出できるようにしたいと思います。よろしくお願いします。

篠木分科会長　よくわかりました。それじゃあ、吉岡さん、もう時間もないですけれども、最後まとめをよろしいですか。

吉岡副分科会長　いえ、もうこれで結構です。

篠木分科会長　よろしいですか？でしたら、これぐらいで。

事務局（濱田）　事務局のほうから、一つご報告です。

篠木分科会長　お願いしたいと思います。

事務局（濱田）　はい。次回は８月１３日を予定しておりまして、最初から分科会として開催をさせていただきます。場所は、次回は本庁舎８階の大会議室Ｂというところになります。また、ご通知はさせていただきますが、そちらのほうに集合直接していただいて、また分科会に分かれていただくという流れになりますので、よろしくお願いいたします。

篠木分科会長　それでよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

篠木分科会長　それでは、お約束したお時間もまもなくですけれども、いろいろ貴重なご意見を拝聴いただきまして、誠にありがとうございます。皆さんのご意見を事務局のほうとしてまとめていただき、またいろいろなご報告を事務局のほうからお願いしたいと思います。どうもご苦労さんでございました。ありがとうございます。